

デザイン学科学生による「べる」表紙デザイン制作の概略報告

筑波技術大学総合デザイン学科

安田輝男

要旨：平成13年度より現在にいたるまで、機関誌「べる」の表紙デザインは、本学デザイン学科の学生作品が採用された。本稿では、その経緯と作品及び当取り組みの意義についての概略を報告する。

キーワード：視覚伝達デザイン、聴覚障害、アート、デザイン

1. はじめに

「社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団」発行、「全国難聴児を持つ親の会」編集の「べる」は、年4回発行され、発行部数も4000部を超える機関誌である。読者対象は、聴覚に障害のある人々とその保護者及びその関係者で、本学産業技術学部の情報を伝えるに、まさに適した媒体の一つと考えられる。本学部の情報は、「べる」の記事として、現在も適宜掲載されている。

特に、「べる」の表紙デザイン(イラスト表現)については、平成13年度より現在に至るまで、本学デザイン学科学生の作品を採用していただいている。このことは、学生にとって、“デザインの現場”としての社会へ自分の作品が発表できることであり、学生のデザインへのモチベーションの醸成に寄与するところ大である。

2. 表紙デザインの制作意図について

機関誌「べる」の表紙デザイン制作にあたって、制作者は、制作意図について、それぞれ次のように述べている。

作品①（「べる」No.114）

吉田智彦（平成13年度 デザイン学科卒業）

「ベルを人の耳の所に置いて、しっかり音を聞いている人の表情を表現。人とベルとの深い関わりを通して、コミュニケーションをシンボリックに表現しました。」

作品②（「べる」No.116）

中嶋亜美（平成13年度 デザイン学科卒業）

「健常者と障害を持っている子どもたちが一緒に遊べるおもちゃには、犬とうさぎのマークがついている。目の不自由な人は犬、耳の不自由な人はうさぎがシンボルマークとされている。健聴者が『べる』を読む事で聴覚障害者への理解を深め、又聴覚障害者も自分の障害を受け入れ、共に学び、共に歩んで欲しいという願いからキャラクターにうさぎを使う事にしました。」

作品③（「べる」No.123）

寺井亮宣（平成14年度 デザイン学科卒業）

「ハート形のリボンの愛で、ベルの響きを包みこんでいる。健聴者は、ベルに耳を傾けてその響きを聞くことができるが、聴覚障害者は目でしっかりと音の響き、音の気持ちを受けとめる。“目で聴こう”という意味を、このデザインに託している。」

作品④（「べる」No.125）

伊藤 潤（平成16年度 デザイン学科卒業）

「大きなベルと小さなベルが並んでいます。それは親子、先輩後輩、健聴者と聴覚障害者...といった関係を意味しています。健聴者も聴覚障害者も一人でいるより、誰かと一緒にいることで頑張れるという気持ちを表現しました。」

作品⑤（「べる」No.129）

梶原慶順（平成17年度 デザイン学科卒業）

「フクロウは、自由、幸福、知恵の鳥と言われている。耳が聞こえなくても、自由で幸せに強く生きていけるようにとの想いを込めて、強く羽ばたく姿を表現しました。」

作品⑥（「べる」No.134）

裕 愛子（平成18年度 デザイン学科卒業）

「一見、何も無い貝のようだけど、触れてみると、色々なモノや情報が感じられます（貝に触れることは、コミュニケーションをとることを表現）。人の心は、こうした貝のうず巻の様に深く複雑であるとのイメージを表現しました。障害がある人でも、ない人でも、どんな人でも、直接的に触れあえば、その人しか持っていないモノを見ることができし、理解できるということを表現しました。」

作品⑦（「べる」No.137）

小野智美（平成19年度 デザイン学科卒業）

「耳が聞こえなくても、風・太陽・緑を感じることはできる。自転車は自分の行きたい道に自分の力で自由にどこまでも進むこともできる。しかし自分でこがなければ決して前には進まない。耳が聞こえないから無理だと初めから諦めるのではなく、聞こえないけれど何でもできるんだ！」

という気持ちをこめて、マフラーを風になびかせながら自転車で走る少年を表現した。」

以上、制作者自らの制作意図をみてみると、一貫して言えることはコミュニケーションの大切さを説き、それを踏まえて、表紙デザイン（イラスト表現）が、シンボリックに表現されていることである。

「べる」の表紙デザイン（イラスト表現）に取り組むことにより、学生たちは、円滑なコミュニケーションを実現するために、いかに視覚伝達デザインが大きな役割を果たしているかを体験している。

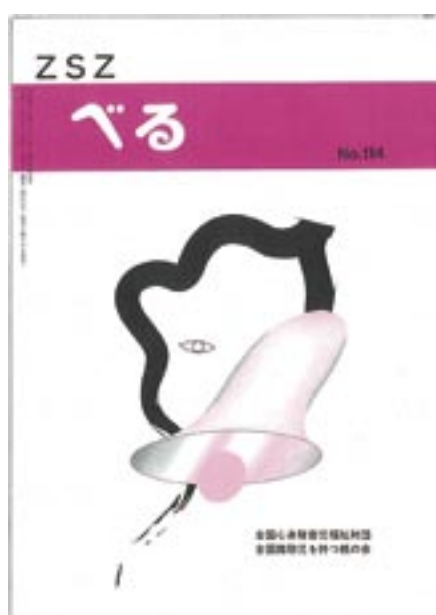
今後も引き続き、デザインの現場としての媒体「べる」

の表紙デザインに、本学学生作品を採用していただけたら幸いである。

謝 辞

機関誌「べる」の表紙デザインに、本学デザイン学科学生作品を掲載していただくに際しましては、実に多くの皆様方からのご支援・ご協力をいただきました。

本学経営評議会委員でもあり全国難聴児を持つ親の会副会長の古橋靖夫先生、社会福祉法人全国心身障害児福祉財団の皆様、全国難聴児を持つ親の会事務局の皆様、平和堂印刷所の皆様、心から御礼申し上げます。



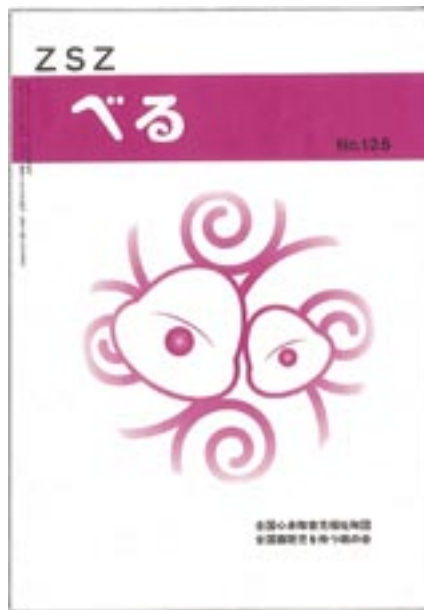
作品① 吉田智彦さんの作品



作品② 中嶋亜美さんの作品



作品③ 寺井亮宣さんの作品



作品④ 伊藤 潤さんの作品



作品⑤ 梶原慶順さんの作品



作品⑥ 裕 愛子さんの作品



作品⑦ 小野智美さんの作品

**Report of Outline of “Bell”
Cover Designs that Have Been Designed
by the Department of Synthetic Design Students**

YASUDA Teruo

Department of Synthetic Design
National University Corporation, Tsukuba University of Technology

Abstract: In the selection of The Bulletin “Bell” Cover Design, this university students’ work has been adopted from 2001 to date. This report outlines the process, work and significance of this trial.

Keyword: Visual communication, Hearing impaired, Art, Design